

# 未来は住宅の選択肢にあふれてる

気力がなくなるその前に  
決めておくべき事がある



【講演】 変化する日本経済と暮らし方の選択肢

【日時】 4月13日(土) 9:30~11:30(受付開始9:15)

【場所】 クリエイト浜松 (静岡県浜松市中央区早馬町2-1)

【講師】 柏原 雄基(認定講師)

【定員】 20名(受講無料)

【後援】 浜松市

# 80歳の暮らし

必ずやってくる未来の暮らし

あなたは自分の80歳の想像していますか？

当会に寄せられる暮らしの相談には、築年数が経った家をセカンドライフに備えるためリフォームを考える人が多い。キッチンや浴室の新調や家族が減った使いやすいつま取りへの変更。

寒くて暑い家、使われなくなった子供の空き部屋。家中に溢れた物の処分も悩みの種。

築30年を超えた家に住む人は、冬温かくて夏涼しい家が想像できない。仕方がないと諦めている。リフォームすれば全て解決すると思うけれど、実際の問題はリフォームでは片付かない。未来に問題をつくる原因にも。



「あなたは後何年、今の家に住み続けますか？」

暮らしの相談を受ける当会専門家が必ずする質問。みなさんも計算してみてください。

購入した住宅に住み続けるだけが選択肢ではありませんが、住み続けるしかないと考える人が多い。

80代は、誰かのサポートを受けながらの生活が始まる確率が高まる年齢。その時、あなたの暮らすスペースは何処が最適なと考えていますか？

もし今の家で暮らし続けるのなら、誰にどんなサポートを依頼しますか？家は「暮らすスペース」家族構成や体調の変化によって快適に暮らすペースも変化します。



## 子どもの未来に大切なのは住宅購入より選択判断

失われた三十年と呼ばれ、未だ日本経済の回復は期待できない。そんな厳しい状況でも住宅所有を希望する日本人は7割を超えている。

昔のような同居大家族は減少、終身雇用からスアツ転職へと変化し、コロナ禍以降は在宅勤務という新たな働き方まで生まれた。

社会保障制度も先細り、健康寿命も平均寿命も延び、年金受給年齢も更に引き上げられ、現役で定年を迎えてもまだまだ仕事を続ける人は増え続けている。

時代の変化が速くなりそうな今後、今の子ども達が社会人になる頃には、その時々で最適な環境も変化しそうで、住宅を所有することが負担になる可能性は高くなる。

暮らすスペースは人が生涯必要とするものだから、当たり前や当然といった習慣に惑わされず、暮らすスペースの選択肢がどれだけ沢山あるかを知っておいてほしい。

全てのの人に、多くの選択肢があることをご紹介します。

はなきりんの「学び場」は様々な専門家が日常で即活用いただけるヒントを届けます



一般社団法人暮らし振興支援機構  
代表理事 大田 麻美

25歳で会社を起業し50歳でリタイアメント後、この団体を設立。会社経営しながら講演活動を行い、受講された方の無料相談窓口を運営。これまで8万組の相談に対応する中で、リアルタイムで人が抱える問題や不安をリサーチ。現在は、日常に役立つ学びを全国の専門家会員や教育機関・自治体と協働しながら自身のセカンドライフのライフワークとして学び場提供活動を行う。

### 受講お申込・お問合せ

●受講申込 ※下記二次元コード、お電話にて申込ください



0120-870-041

(平日9時~17時)

●お問合せ

はなきりん事務局: 0798-61-7723

(平日9時~17時)



出世大名 家康くん

出世法師 直虎ちゃん

## 講演概要

### 変化する日本経済と暮らし方の選択肢

【日時】 4月13日(土) 9:30~11:30(受付開始9:30)

【場所】 クリエイト浜松 (静岡県浜松市中央区早馬町2-1)

【講師】 柏原 雄基 (認定講師)

【定員】 20名 (受講無料)

### カリキュラム

- ・変化し続ける日本の暮らしと理由
- ・846万の空き家が生まれた理由
- ・20年後の日本人のライフスタイル
- ・暮らしによるメリット・デメリット
- ・今だから考えたい未来の暮らしの選択肢
- ・将来の「暮らし方」を見つける3つの計画法

### 講演内容

何が変化しているのか・過去から現在の暮らしの変化とその理由・なぜ日本人は住宅を所有したがるのか・家計と向き合う暮らし・子どもの20年後の住宅価値観・暮らすスペースに必要な条件・賃貸に住む人が持つ10の選択肢・所有住宅に住む人がもつ14の選択肢・万が一の時は施設と言う流行りと暮らしの準備・住宅を負担にしない3つの心得・変化に対応